

2021年10月22日

山陰海岸ジオパーク推進協議会
会長 関貫 久仁郎 様

日本ジオパーク委員会
委員長 中田 節也



第43回日本ジオパーク委員会審査事前確認通知書

2021年9月25日に行われた第43回日本ジオパーク委員会において確認された貴地域に関する課題等をまとめて、ここに通知します。

【総評】

人事異動のないゼネラルマネージャーの登用により、行政・組織・地域住民の連携ができ始め、既存の教育事業や地域住民の活動に統一感が出始めている。前回のユネスコ審査のリコメンデーションのほぼ全てにおいて、何らかの対応・改善が見られる。現在の基本計画や行動計画ではマーケティングやツーリズムが重要項目に位置付けられており、山陰海岸ジオパークトレイル事業をきっかけに、各地の拠点施設や地域団体（もしくは住民）がこれまで行ってきたジオパーク活動につながりが見られるようになった。一方、ジオパーク活動に関わる関係者は、自らが実践している活動が、ユネスコ世界ジオパークの理念やSDGsで到達すべき事柄のどの部分に関係しているのかについて、さらに認識を深めることが必要である。また、ツーリズムや地域振興に関する優れた活動が、自然環境を中心とした地域資源の保護・保全を意識したものであることをアピールするとよい。

次のユネスコ審査では、事務局と各構成自治体や関係団体が担う事業の役割分担を明確にし、あらゆる立場の人がジオパーク活動に関わっていることが伝わるようにするとよい。また、ジェンダーバランスを意識した体制づくり、法的位置づけを有する団体に運営組織を変えていくことへの検討を進めることが必要である。さらには地質資源の売買の取りやめについて、地質資源を販売する業者と継続的な対話が必要になる。

なお、サイトや拠点施設の現況および現地でのガイドの案内状況等については、改めて現地で確認する必要がある。

【優れている点】

- ・ ゼネラルマネージャーの登用により、まとまりを持ったジオパーク活動が展開され始めたこと
- ・ 運営組織内の情報共有の促進
- ・ 地域住民や地域団体の声を反映させて改訂した基本計画および行動計画
- ・ 教育事例集の作成と共有
- ・ 地域資源を持続可能な形で活用しようとしている地域住民や団体の存在。特に地域における女性の活躍
- ・ 大学教員等の有識者との協働

【ユネスコ審査に向けて準備が必要な点】

1. 運営に携わる人たちの役割分担の可視化（特に構成自治体、事務局、地域団体の事業の関係性が伝わるようにする）
2. 地域を訪問する外国人観光客のニーズに合わせたパンフレットやウェブサイトの多言語化の推進
3. パートナーシップに関する今後の戦略の整理
4. ジオパーク関係者それぞれの活動と、ユネスコ世界ジオパークの理念やSDGsとの関連性の認識
5. 運営組織内における女性の役割拡大
6. 将来的な運営組織の在り方の検討や地質資源の売買の停止に対する働きかけ

以上で指摘した点や現地調査で指摘された改善点を踏まえ、来年のユネスコ審査の準備を進めてください。また、ユネスコに提出する書類を12月初旬に日本ジオパーク委員会に提出してください。

以上